

淡海観光ガイドの友

第 47 号

発行日 令和 7 年 10 月 1 日

発行 淡海観光
ボランティアガイド
連絡協議会

会長就任あいさつ



淡海観光ボランティアガイド連絡協議会

会長 宮 下 哲

令和 7 年度総会にて本会会長に選出されました彦根ボランティアガイド協会の宮下哲です。先輩諸氏が積み上げられてこれられました実績を大切に、会員の皆様方のご協力のもと観光ボランティアガイド活動をさらに魅力あるものにしていきたいと考えております。

そして、滋賀県観光事業審議会委員として 2 年間の委嘱を受けました。年数回の滋賀県観光事業審議会での「シガリズム観光振興ビジョンアクションプラン」等の審議会が開催されます。観光ガイドの重要性を訴えていきたいと思ひます。

先日県立大学の授業援助において、授業担当の教官より、学生の感想としてガイドさんの取り組み方の意欲に学生全体が大変感心していました、シニア世代の学習意欲の高さを見て学生たちも授業援助後の授業態度に変化が見られたと言っておられました。

ところで県の連絡協議会の組織は各団体の規模が 10 人以下の組織から 50 人以上の組織まで様々です。彦根の状況は佐和山城跡があり、山城の魅力を伝えるということで城づくりの説明をわかりやすく行うことの利点があります。

また、県の交流研修会のときにもお話したように、ガイドをしていると、自然の中でのいろいろな風景に感動します。たとえばモリアオガエルの卵を見つけたとき、なぜ卵は泡に包まれているか、枝に産み付けられているのか、いろいろな自然界のことが想像できます。そして、街道筋で春日八郎のお富さんの風景をみつけることができます。見越しの松の風景です。昔の街道筋で見越しの松はその家の繁栄を象徴するものでした。

このように、旅をした人の思い出アルバムづくりを、目指しています。今後皆様の協力もと協議会発展につなげていきたいと思ひます。

令和7年度 交流研修会報告

◆ 古刹の国宝と戦国の聖地

竜王町観光ウェルカムガイド 古株 利平



梅雨入り前の晴れた北びわこ長浜でのひと時、私たちDグループ10数名は長浜観光VGのガイドさんの案内で1130年の歴史がある神照

寺と戦国時代に日本を揺るがす事件があった姉川の合戦の地を訪れました。

神照寺では創建350年の本堂で住職の面白く深みのあるお話を聞き、国宝の華籠（けこ 法会の時に本尊に散華する華を盛る皿）や平安時代作と伝わるボケ封

じ観音として親しみのある千手観音立像、北の守り神の毘沙門天立像、迫り来るユニークな姿の不動明王などの文化財を拝見し、もう一度来たいと思う印象深い場所でした。

また、姉川の合戦地に佇むと目の前に小谷の山や虎御前山が一望でき、織田・徳川軍と浅井・朝倉軍の双方四万七千人であった壮絶な戦いをガイドさんのお話しや案内板で想像し、今の穏やかな風景との差を感じました。

そして、何よりも今回ご案内頂いたガイドさんの気さくで、味わい深い語り口で楽しい時間を持つことが出来ました。

ありがとうございました。

◆ 江戸期の科学者と戦国の聖地

しがらきの郷・歴史ボランティアガイドの会 杉森 正

国友村は、湖の底のようにしずかな村だった。家並みはさすがにりっぱで、どの家も伊吹山の霧で洗いつけているように清らかである。

国友は司馬遼太郎の街道をゆくの一説のように、清らかで静かな町並みだった。至る所に鉄砲衆屋敷跡の石碑が建てられていて、往時の繁栄が偲ばれた。また、現存している国友一貫齋生家の傍に設置された、西欧風の“読書する少女”と“星を見つめる少年”の像とも溶け合う不思議な街道に魅せられた。

姉川橋(野村橋)南側の橋畔に「史跡 姉川古戦場」の標

柱が建てられていた。姉川の戦いは、今でもちはらや血川の名称が残っていることから、多くの武者が血を流したことを容易に想像できる。更に、真柄十郎左衛門や遠藤喜右衛門尉などの獅子奮迅の働きについての臨場感あふれるガイドに、私の想像力は益々広がった。

最後に、長浜の初夏の涼風と戦国時代へのタイムスリップが満喫できた研修会を企画・運営して頂いた長浜観光ボランティアガイド協会の皆様に、ここから感謝申し上げる。

◆ 北国街道木之本宿散策

栗東市ボランティア観光ガイド協会 西村 忠

20年くらい前に木之本駅界隈を一人で歩いた経験がありましたので、今回の交流研修会は迷わず本コースを希望しました。

木ノ本は歴史の宝庫と思うくらい観光スポットがあり、羨ましい限りです。

歩いていると豊臣兄弟や山内一豊が出てきそうな町並みで、住民の皆さんが郷土愛を持って暮らしておられる感じがしました。

ガイドさん（男性）は誠実そうな方で、優しい口調で大変わかりやすい説明でした。

また、写真やパネルを上手に活用されていて、私もガイドとして大変参考になりました。

当日の行程は2時間とお聞きしていましたが、効率良く設定されていて、予定通り解散する事が出来ました。

今回の交流研修会は3会場に分かれての集合でした。湖北ブロックは天津・南部ブロックと同じく広範

囲ですので、3会場に分かれての集合及び解散は成功だったのではないのでしょうか。

来年度は私達のブロックが担当です。

奥びわ湖協会のガイドさんのお心遣いと交流研修会の運営方法を参考にして取り組みたいと思っています。

大変お世話になりまして、ありがとうございました。

交流研修会で戴いたガイド資料を見ながら、木ノ本を訪れたいと思っています。

そうそう、8月の木之本地蔵院の大縁日を覗きに行こうかな？と考えています。



◆ 西野水道と観音様拝観

奥びわ湖観光VG協会 西嶋 正美

県内27名の皆さんを迎えるにあたって私たち西野水道担当9名のメンバーは誓い合いました。『来て良かったと言って頂けるオモテナシをしようではないか』と。問題は限られた時間内にいかに終われるかだ。僅かな時間のロスも避けたく時間配分を練った。

オープニング会場からの移動の車中、『今日のサプライズで堀貫きトンネルをくぐって頂きます。ヘルメット、長靴、電灯は全て用意してありますのでご安心下さい』のアナウンスに車内に歓声と拍手が響いた。

西野集会場では歓迎セレモニーと案内箇所のプレゼンに貴重な時間を頂いた。

2班に別れての仏像の拝観では我ら「奥びわ湖VG」の案内に千年の時を超えて今があるホトケ様、大切に守らせて頂いて来た村人たちの心をきっと感じ取って頂けたことだろう。『もっと拝んでいたかった。また参らせて頂きたい・・・』などの声の中をもう一つの目的箇所

である西野水道に向かう。

トンネル探索では岩盤に残るノミの跡、江戸末期にノミとゲンノウだけで掘られた遺構に感嘆の声が上がる。ここでは細かな説明などは不要だ。見て、触れて、肌で感じ取って頂くことで十分だった。暫らく進むと琵琶湖岸に出る。目前に迫る竹生島、葛籠尾半島の奥琵琶湖の景色に歓声が上がる。

振り返れば、参加者の皆様には随分と無理を強いる行程だったかも知れない。無事に終了出来たことにお礼と感謝を申し上げます。



◆ 京極氏のふるさと、柏原を訪ねる

高島町観光ボランティア協会 安藤 伊津子



Cコースは二つに分かれ、私たちの班は先に清瀧寺徳源院へ向かいました。まむし注意の看板に恐る恐る境内に足を踏み入ると、右手にバサラ大名と人気の京極高氏お手植えと伝わる道誉桜が。庭園を眺めつつ京極家の家系図を手に住職の説明を聞きました。

高次は関ヶ原合戦の折戦功をたて、落ちぶれかけた京極家を盛り返した中興だったのです。恥ずかしながら勉強不足で、高島の大溝城主だった程度の認識しかありませんでした…。

清瀧寺は京極家居城の地に初代が建立しました。境内奥の墓所は、江戸時代に丸亀城主だった高豊が父の法要

の折に思い立ち、各地に散在していた歴代の墓碑を集めて整備したもので、鎌倉時代からの宝篋印塔が一か所に集められているのは珍しく、国の史跡に指定されています。ところがこの春、墓所の塀や石塔の補修は終えたものの軟弱な地盤の不安は解消されず、非公開が決まりました。今回は幸運にも見学が叶いましたが、今後の史蹟の保全を思うと複雑な気分になりました。

柏原宿は古い町並みが残り、往時の繁栄ぶりを偲ばせる建物が軒を連ねています。老舗のもぐさ屋伊吹堂亀屋佐京商店や、様々な意匠の彫刻を施した板状の土居熨斗瓦が目をはひく元柏原銀行、柏原宿歴史館の幾重にも重なる美しい屋根など、眺めていて飽きません。

道沿いに並んでいた鉢植えのエキナセアは今頃満開で訪れる人を歓迎しているでしょう。米原の皆さん、ありがとうございました。

◆ 京極氏のふるさと、柏原を訪ねる

彦根ボランティアガイド協会 小野 隆

彦根からは34名が参加し、米原学びあいステーションでの開会行事の後、柏原へ移動し6名のガイドさんに歴史深い江戸から60番目の宿場街と徳源院を案内していただいた。1.4kmの長い宿場街が道路・建物とも綺麗に整備され案内表示も丁寧にされて趣のある街並みが印象的だ。

江戸時代にお灸の伊吹もぐさを販売し大繁盛した街で、最も大きい「亀谷左京」は今も商いされていて重厚な建屋が目目を引く。伊吹山は薬草の宝庫で良質の蓬（よもぎ）を原料とし、もぐさを考案したとのこと。徳川将軍が休憩・宿泊した柏原御茶屋御殿跡等を経て清滝の京極家菩提寺清瀧寺徳源院へ向かった。道誉桜や鮮やかな青もみじの中をくぐり抜けて本堂へ上がり、ご住職に小堀遠州作と伝わる庭園を見ながら京極家の歴史と寺院の説明を教えていただいた。かつては水をたたえた池泉回

遊式庭園であったが、1959年の伊勢湾台風で山からの水路が途絶えてしまい枯山水になったとのこと。

奥の位牌堂には歴代当主の位牌や第22代高豊の木造が安置されている。高豊はこの寺の復興をはかり、三重の塔を建立し、先代の院号から徳源院と改称した。このときに近隣に散在していた歴代の宝篋印塔をここに集めて京極家の墓所とした。中興の祖、高次の石廟を中心に32基が並んでいる。国宝彦根城天守は天津城を移築したもので、当時の藩主が高次であったので京極家に一層の親しみを感じて研修会を終えた。



TOPICS

歴史ロマン 鏡の石造仁王尊

竜王ウェルカムガイド 大橋 裕子

竜王町道の駅「かがみの里」の駐車場より、山手へ徒歩5分の所、西光寺跡（最澄が建立）に仁王堂があります。この中には県下でも一例しかない大変珍しい石造の仁王尊金剛力士像（阿形）が祀られています。毎年6月最後の土曜日に千日祭、日曜日に千日会が行われ、この仁王尊が開帳されます。いかめしいお顔ですが愛嬌があります。また足の病を治して下さいと言われ、遠くからもたくさんの参拝者があり、藁草履をお供えます。

仁王尊は本来阿形、吽形で一對ですが、鏡ではもう一方の吽形仁王尊は、長年山崩れで土に埋まっていたと言われていました。しかし最近、金沢の今枝重直の下屋敷にこの対ではないかと言われる吽形の金剛力士像が見つかりました。私たちも金沢まで見にいきましたが、なるほど類似点が多くみられ、感動を覚えました。金沢からも何度か研究者が来られ、調査の結果、ほぼ一對であろうと言われています。どうして離れ離れになってしまったのか、歴史ロマンですね。



金沢の金剛力士像



鏡の金剛力士像

「豊臣兄弟！」の舞台 木之本・余呉の山々

奥びわ湖観光ボランティアガイド協会 山内 昌達

来年のNHK大河ドラマは「豊臣兄弟！」。湖北一帯はその舞台の一部となり、多くのお客さまを迎える準備中である。中でも木之本から余呉にかけては羽柴秀吉と柴田勝家が信長の跡目をかけて争った“賤ヶ岳の戦い”のあった場所で、そのいくつかのスポットを紹介させて頂く。

まず戦の名称となった「賤ヶ岳」は360度の大大パノラマ。まさに絶景で湖北一帯が見渡せる山。景色の素晴らしさからびわ湖八景の一つ「賤ヶ岳の大観」としても有名である。

次に「田上山」。ドラマの主人公である秀長が陣を敷いた山。留守がちな秀吉に代わり実質本陣の役割を果たしたとも言われ、北国街道や秀吉の最前線が見渡せる絶好の地点。現在伐採等でお客さまを迎える準備をしている。

次は秀吉方の最前線「堂木山」。北国街道を挟み東野山との間に柵を設け街道を遮断した戦略上重要な地点。主将は途中柴田方へ寝返る山路正国。砦跡はしっかり残っており必見の場所。現在ここも山道の整備や樹木の伐採を行っている。

最後は「大岩山」。膠着していた戦を柴田方の佐久間盛政が攻め、一挙に戦が展開していくポイントとなった山。佐久間盛政は一旦勝利を収めるが秀吉の美濃の大返しにより逆転され柴田軍全体の敗走に繋がっていく。ここは人気のハイキングコースで常に多くのお客さまが来られている。

来年と言わず今から湖北を訪れて頂き、大河ドラマを一層面白く見られてはと思います。



編集後記

湖北ブロックで開催されました今年6月の交流研修会は、セミナー&カルチャーセンター臨湖、木之本スティックホールおよび米原学びあいステーションで初めて3会場に分かれて式典の後、現地研修を実施するなど、これまでにない新しい取り組みをしていただきました。関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

また、広報部会の選定により、参加されました方の交流研修会の報告ならびにTOPICSを執筆いただきました。お忙しいなか、ありがとうございました。

今後とも協議会の運営にご協力、ご支援をお願いします。

(事務局)

お問い合わせ

淡海観光ボランティアガイド連絡協議会事務局（(公社)びわこビジターズビューロー内）担当：船橋・知田
〒520-0806 大津市打出浜2番1号「コラボしが21」6階 TEL077-511-1530/FAX077-526-4393